

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-205983

(43) 公開日 平成8年(1996)8月13日

(51) Int. Cl. 6

A47G 25/12

識別記号

A 7361-3K

F I

審査請求 未請求 請求項の数1 FD (全5頁)

(21) 出願番号

特願平7-39339

(22) 出願日

平成7年(1995)2月3日

(71) 出願人 000133928

株式会社テラモト

大阪府大阪市西区立売堀3丁目5番29号

(72) 発明者 古田 巍

大阪府八尾市南木の本2丁目56番地 株式会社テラモト内

(72) 発明者 寺本 浩之

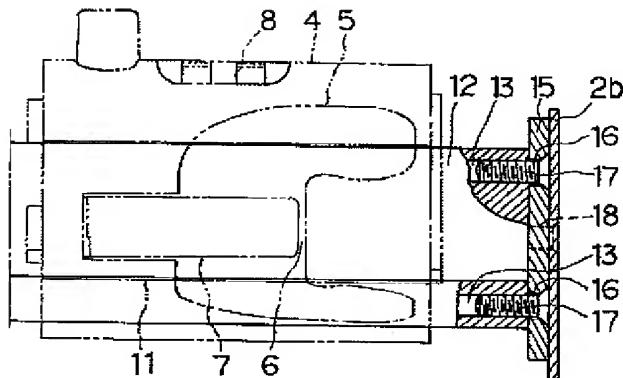
大阪府八尾市南木の本2丁目56番地 株式会社テラモト内

(54) 【発明の名称】傘立て

(57) 【要約】

【目的】 傘支持体の取付けを効率よくかつ安定よく行うことが可能であるとともに、各傘支持体を長期間にわたって安定よく支持することが可能な傘立てをうる。

【構成】 傘支持体4に開口部6を有する支持孔5を設けるとともに、開口部6を開閉するレバー7及びレバー7をロックまたはフリーにする錠8が設けられて、傘支持体4を貫通して断面L字形状の取付孔11が設けられている。取付孔11の断面形状に対応する断面L字形状の取付材12を取付孔11に挿通して、複数の傘支持体4を取付材12に取付けて、取付材12の各端部をユニット連結板15に小ねじ17で連結する。ユニット連結板15をフレームの相対した側板2a, 2bに固定して、フレームに傘支持体4を取付けている。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 傘の 1 本を支持する支持孔を設けてなる傘支持体に、前記支持孔の軸線に対して交差する方向に貫通する取付孔が設けられるとともに、前記取付孔の断面形状が L 字形などに折曲または円弧状などにわん曲した長孔に形成され、前記取付孔の断面形状に対応する断面形状の取付材を前記取付孔に挿通して、取付材に複数の傘支持体が回転不能に取付けられ、取付材の両端部がフレームの対向取付部に取付けられたことを特徴とする傘立て。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、雨天時などに使用または携帯した傘の 1 本ずつを各別に区画して立てて保管する傘立てに関する。

【0002】

【従来の技術】 雨天時などに使用または携帯した傘の 1 本ずつを各別に区画して立てて保管する傘立てとして、例えば、実公昭 61-5184 号公報に開示されたものが知られている。この傘立ては、一本の傘が挿入されて保持するリング状の区画体の両端部に平行状に貫通した取付孔を設け、かつ前記各取付孔に丸棒を挿通して、この一対の丸棒に複数の区画体を並べて取付ける。そして、凹形状に形成されたフレームの対向部に各丸棒の両端を各別に取付けて、前記各区画体をフレームに取付けてなるものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 前記従来の傘立ても、その各区画体に傘を 1 本ずつ挿入して、その各傘を保管することに対しては支障は存在しない。そして、各区画体に平行状に一対の取付孔を設け、この各取付孔に挿通した一対の各丸棒の各端部を各別にフレームに取付けて、この各丸棒を介して各区画体をフレームに取付けるから、フレームに対する区画体の取付け操作を能率よく行うことが可能である。

【0004】 しかし、区画体の両端部に設けた取付孔のそれに丸棒を挿通して、丸棒の各端部を各別にフレームに取付けており、区画体に対して丸棒が回転するから、フレームに対する一対の丸棒の各端部の取付け位置に誤差が生じると、一対の丸棒にねじれなどが生じるおそれがありから、各丸棒の端部の取付位置の精度を高くすることが必要である。そして、区画体が錐を備えたものであると、前記丸棒端部の取付位置の誤差によって、区画体の前記錐の作動が不安定になるなどの支障が生じるおそれがある。一対の丸棒を複数の区画体の各取付孔に各別に挿通し、かつ区画体に対して丸棒が回転可能であるから、各丸棒の挿通に対する手間が多くなる課題もある。また、丸棒はわん曲するおそれがありから体裁が悪くなる課題がある。しかも、前記のように、区画体が錐を備えたものであると、前記丸棒のわん曲で錐

の作動が不安定になる課題もある。

【0005】 本発明は、上記のような課題を解決するものであって、傘支持体の取付けを効率よくかつ安定よく行うことが可能であるとともに、各傘支持体を長期間にわたって安定よく支持することが可能な傘立てをうることを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明の傘立ては、傘の 1 本を支持する支持孔を設けてなる傘支持体に、前記支持孔の軸線に対して交差する方向に貫通する取付孔が設けられるとともに、前記取付孔の断面形状が L 字形などに折曲または円弧状などにわん曲した長孔に形成され、前記取付孔の断面形状に対応する断面形状の取付材を前記取付孔に挿通して、取付材に複数の傘支持体が回転不能に取付けられ、取付材の両端部がフレームの対向取付部に取付けられたことを特徴とする。

【0007】 前記傘支持体としては、支持孔の一部に開口部を形成して、その開口部を開閉するレバーを設け、レバーをロックまたはフリーにするダイヤル式またはキー式の錐を設けたもの、または前記従来例のリング状のものを使用することが可能である。前記傘支持体に設ける取付孔と、それに挿通する取付材の断面形状は、前記 L 字形または円弧形以外に、V 字形や C 字形、U 字形、T 字形、Z 字形などの、取付材に対して傘支持体を回転不能に取付けることが可能であり、かつ取付材の強度が大きくなり、いずれの方向にもほぼわん曲しない任意の形状を選定することが可能である。

【0008】

【作用】 本発明の傘立ては、その傘支持体に設ける取付孔の断面形状が L 字形などに折曲または円弧状などにわん曲した長孔に形成され、かつこの取付孔に挿通される取付材の断面形状を前記取付孔の断面形状に対応させているから、取付孔に挿通した取付材に対して傘支持体は回転不能であって、傘支持体は揃った状態を維持するから、取付材に対する複数の傘支持体の取付操作を効率よくスムーズに行うことが可能である。

【0009】 前記取付材が 1 本であり、かつその断面形状から取付材にねじれが生じるなどのおそれがないから、取付材の各端部を精度よくフレームにかつ能率よく取付けることができる。しかも、取付材は断面形状から強度が大きく、いずれの方向にもわん曲しないから、この取付材で複数の傘支持体を精度よく支持することが可能であり、ダイヤル式またはキー式の錐を設けた傘支持体の場合も、その錐を常にスムーズに作動させることができる。また、取付孔の断面形状が L 字形などに折曲または円弧状などにわん曲した長孔であるから、大きさが比較的小さくなる傘支持体に対して取付孔を無理なく配置することが可能である。傘支持体にダイヤル式またはキー式の錐を設ける場合にも、前記錐の配置に対して支障なく取付孔を設けることも容易である。

【0010】

【実施例】本発明の傘立ての第1実施例を図1～5に基づいて説明する。図1～5において、1はフレームで、これはステンレススチールなどの金属板を断面凹形状に折曲形成した対向取付部としての一対の側板2a, 2bを相対して配置し、かつこの側板2a, 2bを棒状の連結材3a, 3bで互いに連結して構成されている。4は傘支持体で、これに貫通して設けた支持孔5の一部に開口部6を形成し、この開口部6を開閉するレバー7の端部が傘支持体4に回転可能に取付けられている。8は前記レバー7をロックまたはフリーにするダイヤル式の錠である。この錠8は複数のダイヤルの回転でレバー7の回転を不能にし前記開口部6を閉鎖して、支持孔5に挿入した傘の取出しを不能にすること、及び前記複数のダイヤルの回転で数字を合わせるとレバー7が回転可能になって、支持孔5の傘を取出すことができるよう構成されている。錠8の操作で前記レバー7をロックとフリーにする構成は任意である。

【0011】9は傘支持体4の一側面に突設された筒状のスペーサで、傘支持体4の他側面に筒状のスペーサ9に挿入可能に挿入突部10が突設されている。11は傘支持体4を貫通して形成された取付孔で、これは両端を前記各側面に開口して、断面L字形状に折曲した長孔に形成されている。12は取付孔11に適合させて、それに挿通可能にアルミニウムで形成された断面L字形状の取付材で、その各端面に複数ずつのねじ孔13が設けられている。この取付材12を傘支持体4の取付孔11に挿通して、取付材12に複数の傘支持体4が互いに接合状態に取付けられている。14は軟質プラスチックまたはゴムからなるパッキンで、このパッキン14は傘支持体4の側面形状とほぼ同形に形成されて、取付材12と各スペーサ9が挿通される孔14aが形成されている。このパッキン14と傘支持体4とに交互に取付材12が挿通されて、各傘支持体4間にパッキン14が介在し、かつ隣合った各傘支持体4、4の一方の側面に突設したスペーサ9に、他方の側面に突設された挿入突部10が順次に挿入されている。

【0012】15は取付材12の各端部を取付けるアルミニウムからなるユニット連結板で、これに取付材12の各ねじ孔13に重なる通孔16が形成されている。前記各通孔16に挿通した小ねじ17を取付材12の端部の各ねじ孔13にねじ込んで、傘支持体4を取付けた取付材12の複数が、間隔をおいて平行状に一対のユニット連結板15, 15間に取付けられている。そして、フレーム1の側板2a, 2bの各内側に各ユニット連結板15, 15を重ねて取付ねじ18で固定して、フレーム1に各傘支持体4が取付けて傘立てが構成されている。19は前記連結材3aに取付けた表面板である。なお、前記取付材12及びユニット連結板15は硬質のプラスチックで形成することも可能である。

【0013】前記傘立ての傘支持体に対する傘の取付けは、傘でレバー7を押して開口部6から支持孔5に傘を

挿入してから、錠8の各ダイヤルを回転操作してレバー7をロックして支持孔5に傘を保持する。この傘を支持孔5から取出すときも、前記錠8の各ダイヤルを回転操作しレバー7をフリーにしてから、傘でレバー7を押し開いて支持孔5から取出す。

【0014】前記各傘支持体4は、その取付孔11に挿通した取付材12に取付けているが、取付孔11と取付材12の各断面形状をL字形状に形成しているから、取付孔12に挿通した取付材12に対して傘支持体4は回転不能である。したがって、取付材12に対する傘支持体4の取付けをスムーズに行うことが可能であるとともに、取付孔11に取付材12を挿通するのみすべての傘支持体4の方向が揃うから、取付材12に傘支持体4を効率よく取付けることが可能である。そして、取付材12を断面L字形状に形成してから、その強度が大きくて複数取付けた傘支持体4の重量などでいずれの方向にもほぼわん曲するおそれがないから、取付材12で複数の傘支持体4のそれぞれを安定よくかつ体裁よく支持することが可能である。

【0015】この第1実施例の傘支持体4に設けたダイヤル式の錠8は、そのダイヤルの軸線方向に加圧されると、傘支持体4とダイヤルとが互いに圧接状態になって、ダイヤルのスムーズな回転が困難になるおそれがある。しかし、前記のように、断面L字形状の取付材12は傘支持体4の重量などでわん曲するおそれがなく、各傘支持体4が取付材12の長さ方向で強く加圧されることがない。また、取付材12の各端部をユニット連結板15に取付けるときに、取付材12にねじれが生じるようなおそれもないから、錠8の各ダイヤルがスムーズに回転する状態を長期間にわたって維持することが可能である。取付孔11は断面L字型状の長孔であるから、その長さに比して幅を小さくすることが可能であって、この第1実施例のように、傘支持体4のほぼ外形に沿って取付孔11を設けることも可能であるから、錠8の配置などに対して支障にならないように取付孔11を設けることが容易である。

【0016】取付材12に取付けた各傘支持体4の間にはパッキン14が介在し、かつ隣合った各傘支持体4、4の一方の側面にスペーサ9を突設している。したがって、取付材12の両端をユニット連結板15に取付けたときに、各傘支持体4が必要以上に互いに加圧されることを防止することが可能であるとともに、各傘支持体4に間隔が生じて、それらにがたつきが生じるようなことを防ぐことが容易である。

【0017】前記取付材12の断面形状は、V字形やC字形、U字形、T字形、Z字形などにすることも可能であり、かつこれらの断面形状の取付材12も、前記断面L字形状の取付材12と同様の作用と効果を奏すことが可能である。前記取付材12の断面形状に傘支持体4の取付孔11の断面形状を対応させる。

【0018】傘支持体4の支持孔5の径よりも小さい径

の棒材をわん曲したのみのハンドルが形成された傘のときは、レバー7がロックされた状態で、傘の全体を前後方向に回転させることで傘支持体4から傘のハンドルを分離することが可能である。しかし、この実施例の傘立ては、側板2a, 2bを連結した連結材3a, 3bのそれぞれが、前記のように傘を回転させることを防止するから、レバー7がロックされた状態で傘が分離されるおそれはない。

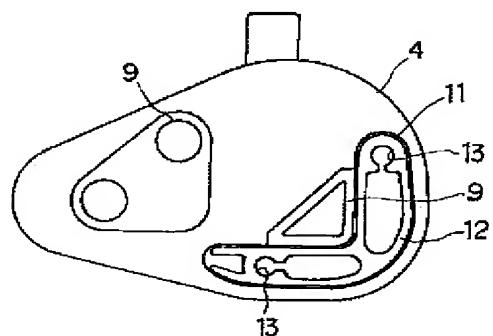
【0019】前記実施例は、各取付材12の各端部をユニット連結板15を介してフレーム1の側板2a, 2bに取付けているが、ユニット連結板15を用いることなく、取付材12の端部を側板2a, 2bに直接に取付けることも可能である。フレーム1はステンレススチールなどの金属板を断面凹形状に折曲してなる側板2a, 2bを棒状の連結材3a, 3bで連結して構成しているが、フレーム1の構成は任意であって、例えば、前記従来例の傘立てのように、フレームを凹形状に形成して、その対向部間に取付材12を架設状に取付けることも可能である。傘支持体4も、キーを用いて操作する錐を用いて構成することもでき、かつ前記従来例の傘立てのように、傘支持体4をリング状に構成することも可能である。

【0020】図6は第2実施例を示すものである。これは前記取付材の端部の取付けに関する。この第2実施例は、ユニット連結板15の表面に固着突設されたプラケット21に取付材12の端部を重ねて、取付ねじ22でプラケット21に取付材12の端部を連結している。前記第1～2実施例から明らかなように、取付材12の端部の取付手段は任意である。

【0021】

【発明の効果】本発明の傘立ては、上記のように、断面形状がL字形状などに折曲または円弧状などにわん曲した長孔にして傘支持体に設けた取付孔に、その取付孔の断面形状に対応する断面形状の取付材を挿入して、その取付材の両端部をフレームに取付けている。したがって、フレームに対する複数の傘支持体の取付けは、その取付孔に取付材を挿通するのみであるから、多数の支持体もフレームに極めて効率よく取付けることが可能である。

【図4】



そして、前記取付材は断面形状が、取付孔に対応してL字形状などに折曲または円弧状などにわん曲したものであるから、この取付材に取付けた傘支持体は回動しないから、取付材に対して各傘支持体の方向を揃えて効率よく容易に取付けることが可能である。

【0022】取付材は前記の断面形状からなるものであって、いずれの方向の曲げ強度も大きくてわん曲のおそれがほとんどない。したがって、取付材に対して多数の傘支持体を体裁よく取付けることが可能であるとともに、取付材のわん曲で各傘支持体の一部が互いに強く圧接される状態になるおそれもないから、傘支持体の構成を任意にすることがかのうであり、かつそれに錐を設けるときも、任意の構成の錐を使用して長期間にわたってスムーズに作動させることが可能である。取付材の両端をフレームに取付けるときに、取付材にねじれが生じるようなおそれもなく傘支持体を精度よく支持することができる、傘支持体に錐を設けている場合にも、その錐を常にスムーズに作動させることができる。そして、傘支持体の取付孔は、前記のように、折曲またはわん曲した長孔に形成しており、その長さに比して幅を小さくすることが可能であるから、傘支持体に錐を設けるような場合にも、その錐などの配置に対して支障にならないように取付孔を形成することが容易である。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1実施例の正面図である。

【図2】第1実施例の平面図である。

【図3】第1実施例の取付材の端部の拡大断正面図である。

【図4】第1実施例の要部の拡大側面図である。

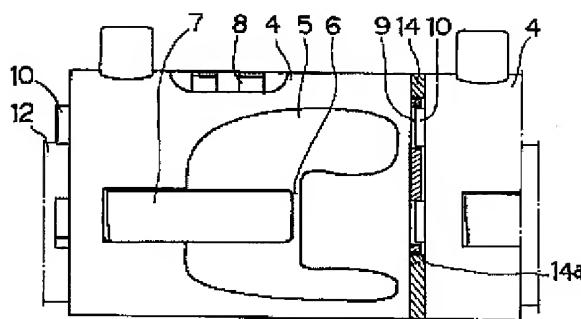
【図5】第1実施例の傘支持体の拡大正面図である。

【図6】第2実施例の取付材の端部の拡大断正面図である。

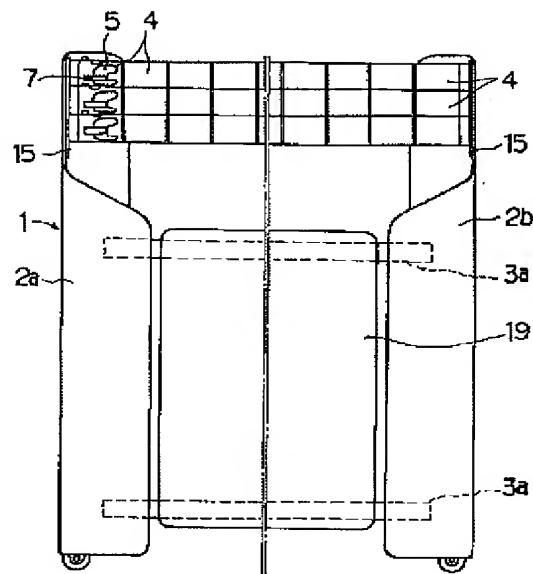
【符号の説明】

1：フレーム、2a, 2b：側板、4：傘支持体、5：支持孔、6：開口部、7：レバー、8：錐、11：取付孔、12：取付材、13：ねじ孔、15：ユニット連結板、17：小ねじ。

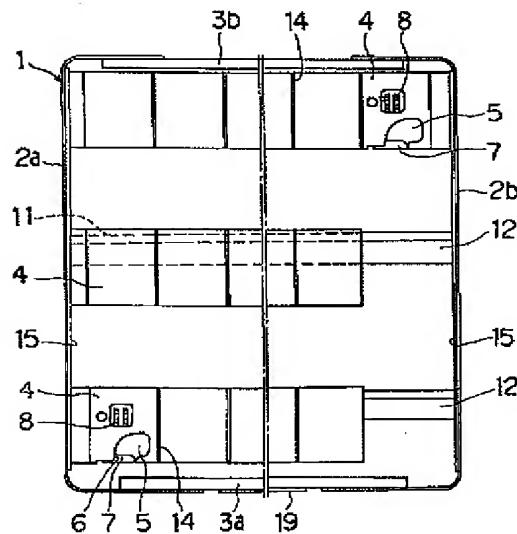
【図5】



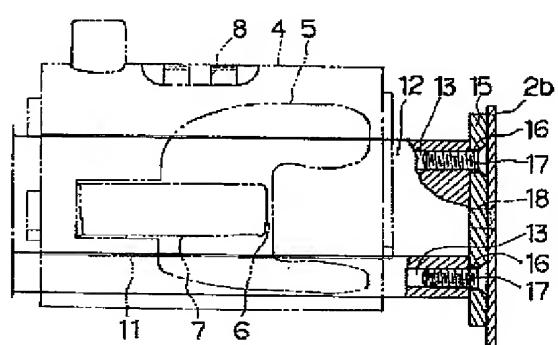
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 6】

